

2019年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号		授業科目名	財務会計特論 B			担当教員	廣瀬 郁雄				
		英語授業科目名	Financial accounting B			単 位	2	学 期	後期		
対象年次	1・2年次	クラス指定	なし			他との関連	租税法特論 A B				
履修条件	会計学の基本書程度のものを読んでおくこと。										
テーマ・副題	わが国の企業会計制度の問題点の解明										
授業の教育目的・目標	財務会計特論 A の教育目標を引継ぎ、会社法、金融商品取引法そして税法（とくに法人税法）の各法規にしたがって行なわれているわが国の企業会計制度には、どのような諸問題があるか、それらを会計学的に分析して解明することを教育目標とする。										
授業の理解度の到達目標	財務会計特論 A と同様に、わが国の会計制度もしくは会計実務において、現在問題となっている事項もしくはその矛盾点などを探り出して、その解決法を模索し、一定の結論を導き出せることがこの授業の理解度達成となる。										
授業キーワード	企業会計基準、国際財務報告基準（IFRS）、会社法、金融商品取引法、会計不正、税務会計										
授業の内容	財務会計特論 A で使用したテキストをもとに授業を進める。また、その中で、会計専門誌や新聞紙上等で最近において話題となっている問題があれば、それらを積極的に取り上げて検討するのも同様である。										
授業の方法	財務会計特論 A と同様に、各回のテーマごとに担当者を決め、その担当者の発表を中心にテーマ内容の理解度を深めるために、討議形式で授業を進めていく。										
授業展開	<table><tr><td>1. 会計学の研究領域（ガイダンス） 2. 資産の評価基準 3. 資産会計(1)－現金預金と有価証券 4. 資産会計(2)－売上債権と貸倒れ 5. 資産会計(3)－棚卸資産の範囲と期末評価 6. 資産会計(4)－固定資産の内容と測定 7. 資産会計(5)－減価償却と</td><td>8. 資産会計(6)－無形固定資産と繰延資産 9. 資産・負債の分類基準 10. 負債会計(1)－引当金の内容 11. 負債会計(2)－社債の内容 12. 純資産会計(1)－純資産の構成 13. 純資産会計(2)－払込資本の内容 14. 純資産会計(3)－稼得資本の内容 15. キャッシュ・フロー計算書</td></tr></table>									1. 会計学の研究領域（ガイダンス） 2. 資産の評価基準 3. 資産会計(1)－現金預金と有価証券 4. 資産会計(2)－売上債権と貸倒れ 5. 資産会計(3)－棚卸資産の範囲と期末評価 6. 資産会計(4)－固定資産の内容と測定 7. 資産会計(5)－減価償却と	8. 資産会計(6)－無形固定資産と繰延資産 9. 資産・負債の分類基準 10. 負債会計(1)－引当金の内容 11. 負債会計(2)－社債の内容 12. 純資産会計(1)－純資産の構成 13. 純資産会計(2)－払込資本の内容 14. 純資産会計(3)－稼得資本の内容 15. キャッシュ・フロー計算書
1. 会計学の研究領域（ガイダンス） 2. 資産の評価基準 3. 資産会計(1)－現金預金と有価証券 4. 資産会計(2)－売上債権と貸倒れ 5. 資産会計(3)－棚卸資産の範囲と期末評価 6. 資産会計(4)－固定資産の内容と測定 7. 資産会計(5)－減価償却と	8. 資産会計(6)－無形固定資産と繰延資産 9. 資産・負債の分類基準 10. 負債会計(1)－引当金の内容 11. 負債会計(2)－社債の内容 12. 純資産会計(1)－純資産の構成 13. 純資産会計(2)－払込資本の内容 14. 純資産会計(3)－稼得資本の内容 15. キャッシュ・フロー計算書										
成績評価方法	課題への取り組み方(50%)、授業での発表や討論の状況(50%)などを総合して評価する。										
成績評価基準	成績は総合点で 80 点以上を A、79～70 点が B、69～60 点が C、それ以下を D とする。										
テキスト	授業の中で指示する。										
参考図書	「会計法規集」中央経済社										
準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容	授業ごとに示されたテーマに対して、担当レポートはレジュメの作成をしてくるとともに、2 時間以上の参考文献を含む予習をしてくること。その他の学生は、テーマに対して最低 1 時間以上の予習をしてくること。										
学生へのメッセージ	日本の上場企業が行っている財務会計制度に興味をもっている学生であれば、どなたでも気軽に参加できる授業と思ってください。										
オフィスアワー	主に下記に示したメールでもって質問等を受けることにする。										
連絡先	電話番号	0274-42-2828			メールアドレス	hirose@ic.jobu.ac.jp					
人数制限	なし										